

中経連「キャリア教育共創プログラム」大学ニーズリスト(様式3)

NO	新規継続分類	2024年度該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	大学が希望する講義内容	講義形式	受講予定学生数	その他
①学生のキャリア形成に資する経験・体験談									
2025-1	継続	2024-1	不問	様々な業界や職種について社会人の方からお話を聞こう	学部1年生に、多様な業界・職種についての見識を広め、学生時代のキャリア形成の参考にしてもらう	3種程度の異なる業界や職種の方に、交代でその特徴ややりがい、短所長所等をご紹介いただく	対面・オンライン	約260名	生物資源学部(農学部・水産学部系)の卒業後進路となる代表的な業種・属性からなるべく幅広く組み合わせただけだと有り難いです
2025-2	継続	2024-1	食品製造業や農林水産業関連	キャリア形成において在学中に気をつけておくべきこと	学部1年生に、実際に企業で働いている方のお話を聞かせ、キャリア形成を意識して学生生活を送ってもらうための意識付けを行う。	講演者の在学中の経験、就職活動、社会人になってからの振り返り、社会人目線からのアドバイス、等	原則対面ですが、学生を教室に集めてのリモートで講演いただくことも可能です。	290人	・学部1年生の必修授業で、大規模授業となりますので、講演形式が原則となります。あまりインタラクティブなスタイルや、ワークショップ的なものは難しいです。 ・在学中の経験談ややっておけば良かったことをお話しいただく場合、ある程度若い方が望ましいですが、企業の採用側からの目線ではこういうところをみているという内容なら、年齢層が高めでも構いません。
2025-3	継続	2024-3	不問	キャリア形成 学生に求めるもの／採用について	学生のキャリア観の醸成	講義もしくは座談会	対面授業		
2025-4	新規		消費財ではないBtoBの製造業	我が社の経営戦略	企業とその経営戦略について、理解を深める。	総合政策学部の2・3年生主対象の「経営戦略論」の講義において企業概要のほか事業戦略・前者戦略についてご解説いただければと存じます	対面授業	80名程度	本学部学生は製造業、とりわけ素材や部品といったBtoB企業への理解が不足しているため、BtoB製造業の魅力をもっと知ってもらいたいと考えております。
2025-5	継続	2024-7	製造業、情報通信業等の機械、電気、情報系技術者	初年次導入教育　キャリア形成講座	1年次から今後のキャリアについての意識を高める	講師の方が企業で働いていて感じていること(良いこと、悪いこと、学生との違いなど)やご自身の大学生活を振り返り、社会人として働くうえで役に立っている経験、やっておけばよかったこと等、実体験を踏まえてお話しいただきたい。リアルなお話をしていただくことで、キャリアビジョンを形成し、学生が大学4年間を目的、目標を持って過ごすきっかけとしたい。また、キャリア形成への漠然とした不安も取り除けるような、講義を望んでいる。	対面授業	約300名(1年次)	企業でのことはもちろん、プライベートや生活に関連したことも含めてお話を頂きたいと考えています。就職という観点のみに留まらず、今後の人生を考えるキャリア形成講座の実施を希望します。
2025-6	継続	2024-8	不問	社会人に学ぶキャリアデザイン	適切な企業理解と職業観、勤労観、キャリア意識の醸成	講師自身のこれまでの「キャリア・就職・仕事」や「結婚・出産・育児」等について考えてきたことやその経験談、これから社会に巣立つ学生へのアドバイス等を講義いただければと存じます。	対面授業		業種不問、35歳前後の男女若手・中堅社員。
2025-7	継続	2024-9	可能であれば、大学院を修了されている方を希望します。	卒業後のキャリア選択と社会で求められる力とは	エンジニアとしてのキャリア選択の幅や社会的役割について学生に意識させ、大学院進学や企業就職といった進路を主体的に考える力を養うことを目的とする。	・講師のキャリアの歩み(大学・大学院時代から現在まで) ・就職活動や進路決定の実体験 ・社会で求められるスキル・姿勢についての具体的な紹介 ・「理系人材」の活躍の場と可能性 ・学生からの質問・意見交換の時間(双方向型)	オンライン授業、対面授業の順に希望	50名程度	ご自身の大学時代の活動や就職活動の実体験、キャリア選択のプロセスなどを具体的にお話しいただき、学生の視野を広げられるような講義をお願いいたします。また、可能であれば理系出身者の活躍の場についても触れていただけると幸いです。
2025-8	新規		食品製造業	大学での学びが会社でどのように活かされているか	自身の食生活や栄養摂取の課題を見出し、ライフステージに適した健康美容の在り方を考え、解決できる策を見出す。	企業の主力商品(食品)の強み(栄養面)を、研究目線だけでなくそのマーケティング、営業を含めてお話しいたき、大学での学びとのつながりをお話いただきたい。	対面授業、オンライン授業	約100名	授業は月曜日午前の予定
②就職ガイダンス									
2025-9	継続	2024-10	不問	社会で求められる人材像・社会人として必要な能力	学生に社会人として必要とされる能力等を学ばせる	①2, 3年生向け 社会で求められる人材像・社会人として必要な能力についてお話いただくとともに、実際の採用の際の評価ポイント等についてもお話しいただきたい ②4年生向け 社会で求められる人材像・社会人として必要な能力についてお話いただくとともに、社会に出る上での心構えについてお話しいただきたい	対面授業		

NO	新規継続分類	2024年度 該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	大学が希望する講義内容	講義形式	受講予定学生数	その他
③社会・経済・業界の動向、時宜に沿ったテーマ									
2025-10	新規		不問	東海地方における新産業の展望	再生可能エネルギー、バイオテクノロジー、宇宙産業など、東海地方における新産業の動向について知ること、卒業後には中部地区で就業し、新たな技術やビジネスモデルの創出に携わることをイメージできるようになる。	・新産業とイノベーション ・新産業の現在と今後 ・質疑など	対面授業	約100名	講義時間90分のうち、15～20分くらいはクイズやグループワークなど参加型にしてもらえるとありがたい。
2025-11	新規		ソフトウェア業界企業、支援機関等	拡大するソフトウェア産業	学生にソフトウェア産業の魅力を伝える（成長性、需要先の拡大など）	情報通信産業のうち、拡大するソフトウェア業界の概要を知る。	対面授業	約150名	文系学部生に向けて、同業界の魅力、現状をお話し頂けるよう希望します。企業規模にこだわりますが、「中小企業論」での登壇をお願いしたいです。難しいようでしたら、専門ゼミナールでの展開をお願いします（その際は計30名程度の参加者となります）。
2025-12	新規		中小企業ないし支援機関（信用金庫等、地域金融機関を含む）	東海地方の中小企業（に向けた支援・サポート）	学生に東海地方の中小企業の取り組み、課題等、「中小企業論」「中小企業政策論」にかかる話題を提供頂く	中小企業ご自身による企業案内、もしくは支援機関（金融機関含む）による支援体制のあり方など。	対面授業	約150名	属する業界における中小企業の立場、魅力などをお伝え頂けるとありがたいです。
2025-13	新規		不問	地元中部圏の産業・企業とビジネスデータ(DX)	「ビジネスデータ」を科学的に捉える意義を理解する。	①中部圏にどのような産業が集積し、どのような企業・中小企業が活躍しているのか。②中部圏の企業・中小企業ではどういった人を求めているのか	対面授業	約60名	・ご講義は30分程度。残りの時間は授業担当者との対談、質疑応答です。講義後の対談・質疑応答では、以下のような話題に触れていただく予定です。差し支えない範囲でご共有いただけますと幸いです:ご自身のご経歴、現在のご職業の内容ややりがい、日々接する情報への意識、DX(情報を扱う力)によって広がる可能性について。 ・10月上旬～中旬の時期を希望しますが、それ以降でも支障ございません。授業日は月曜2時限(11:05～)
④企業実務(制度・財務・ビジネススキル等)									
2025-14	新規		特に問いません	実践データサイエンス	実務課題解決のための実践的なデータ活用を知るとともに、その体験を通じてデータサイエンスの実践力を養わせること	3年生向け15回2単位、複数の企業・団体の皆さまにご登壇いただくオムニバス形式の講義です。開講時期はご相談のうえ決定します。内容はデータ活用の実践例のご紹介と関連する演習レポート作成作業を想定しています。なおチューター教員が随伴いたします。	対面授業(オンライン可)	40名程度	企業の実務現場における課題解決のためのデータ活用に関する実践的な話題のご提供を希望します。
2025-15	継続	2024-13	文化の異なる人たちと一緒に働く経験があり、実体験とともに具体的なコミュニケーションスキルなどについてご教授いただける方	異文化コミュニケーション	職場での多文化化が急速に進む中で、国籍や文化の異なる人たちが協働するのに必要な構えやスキルを学ぶ。	秋学期(10月～1月末)期間中に1時間程度の講演・グループワークをしていただきたい。	対面授業希望だが、オンラインでも可	110名 (全学部対象)	可能であれば、大学の教職員も、SD研修として受講させていただけると嬉しいです。
2025-16	継続	2024-14	職場の人事制度や人材育成に関する立場や理念を説明できる方。	職場における人材育成	会社における実際の人事制度について、人事制度および人材育成の理念などについて学び、人事心理学の理解を深める。	秋学期(9月末～1月末 木曜日9:00～10:30)期間中の1コマで1時間程度の講演をしていただき、その後質疑応答10分、講演の感想レポート作成20分。	対面授業	30名(人文社会学部心理教育学科3年生30人)	
2025-17	継続	2024-15	製造業	経営計画の策定と予算編成に関わる仕事のやりがい	学生に管理会計の実践に対して興味を抱かせる。	・企業紹介 ・管理会計が経営にどのように役立っているのか、実務でのご経験にもとづいてお話を頂戴したい。	対面授業	約20～80名	経営のための会計について学ぶことの意義を、学生へのメッセージとして頂戴できればと思います。
2025-18	継続	2024-16	不問	ひと、もの、かね、情報等、ものづくりにおける各種の管理(品質管理、生産管理、設備管理、在庫管理、原価管理、財務管理、人事管理、労務管理など)に関する実際の理解(ものづくりマネジメント)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度 (学部3年)	
2025-19	継続	2024-17	不問	創造的な問題解決過程の理解と応用(問題解決論)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度 (学部3年)	
2025-20	継続	2024-18	不問	人事労務管理の要点理解(人事労務管理)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度 (学部3年)	
2025-21	継続	2024-19	不問	組織における集団・従業員の心理・行動理解(組織行動論・産業組織心理学)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度 (学部3年)	
2025-22	継続	2024-20	不問	社会システムあるいはその下位システム(ものづくり、経営に、産業)に関する理解とマネジメント技術(経営工学概論)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度 (学部3年)	
2025-23	新規		製造業 製造現場で活躍されている(されていた)技術者の方	安全や工学倫理の実際、大学での学びとの関係	工学、特に製造業における安全や工学倫理に関する基本的な考え方、実践の重要性について知る。	工学部の全1年生が受講する必修授業(総合工学教育科目)である「安全教育・工学倫理」の1コマ分において、製造ラインで労働災害を防ぐために企業が策定している安全の行動指針や、それに基づいた生産設備・ルール上の工夫、工学倫理の実践について、現場担当のご経験がある実務者の方から教授いただく。	対面授業 難しい場合はオンライン授業でも可。	480名程度	現場の考え方や実践について、エッセンスの部分を平易にご講義いただきたい。授業で工場見学をさせていただくと企業の方から現場の安全に関する取り組みを聞かせていただくことがあり、学生の関心も高いため、工学部の1年生が、早い段階で、安全や倫理への配慮の重要性に関する、企業様の考え方、行動指針に触れることは大変に有意義であると考えています。

NO	新規継続分類	2024年度 該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	大学が希望する講義内容	講義形式	受講予定学生数	その他
⑤技術開発の方法、専門知識									
2025-24	継続	2024-21	熱機器の研究・開発に携わる方(経験を語っていただく関係上、相当年数の就業実績は必要)	熱機器の開発に関わる諸問題(話題提供)	熱機器の開発において現場での苦悩や工夫について情報共有いただき、学生に実際の開発でどのような基礎知識を活用するのかを効果的に伝える	B3開講科目「応用熱工学」での特別講義1コマ分を想定(テーマは自由)	対面授業	120~140名 (学部3年)	前半10単元分はオムニバス形式での座学(熱エネルギー利用、熱エネルギーへの変換、計測技術など)を提供し、後半の3~4単元分を外部講師による特別講義としており、毎年、企業あるいは大学より外部講師を招いて実施している。
2025-25	継続	2024-22	自動車、精密機器、半導体、医療機器	MEMSや医療機器の製品開発について	学生に対して、MEMSや医療機器開発における最先端方法論を学んでもらう	①基礎研究以降の製品開発、②商品化、③シーズとマーケットのニーズをつなぐという大学では説明が難しい部分をご説明して頂けるとありがたい	対面授業	20-50名程度	大学では基礎的な研究面に強みがあり、基本的な原理を構築することが得意である。一方、昨今では、社会に新しい価値を提示し、新たな産業を創出することも、大学の役割として求められている。ここでは基礎研究以降の企業での製品開発と商品化、さらには技術シーズをマーケットのニーズとつなぐ部分を説明して頂くことで、大学においてイノベーションを起こすことが可能な人材を増やすことを狙いとしている。
2025-26	継続	2024-23	情報サービス業	クラウドコンピューティング	実際のデータセンターの運用事例の話	クラウドコンピューティングの現場の話聞かせる	対面授業	20名	
2025-27	継続	2024-24	対個人もしくは対企業にネットワークサービスを提供している企業の方	ネットワーク、性能評価、待ち行列理論、トラヒック理論、ネットワーク運用、SLA	情報ネットワークの性能評価手法の基礎を学ぶ	ネットワークサービス提供者の立場で、性能をどう考え、どう運用管理しているか、実情を90分程度でお話しいただきたい	対面授業	30名程度 (博士前期課程)	実際のネットワークサービス運用現場での性能評価／管理の実態を学生に伝えられる方を願いたい。また、顧客がどのような性能をネットワークに期待／要求してきていて、それにどう応えているか、といった話もありがたい。
2025-28	継続	2024-25	ハードウェア(プロセッサ)設計・開発	プロセッサ設計、システム設計	近代的プロセッサ設計方式の詳細について学ぶ	プロセッサ自体の設計開発、またはプロセッサ性能の活用(並列処理チューニング等)を踏まえたシステム設計開発に関する内容	対面授業	10名 (博士前期課程)	
2025-29	継続	2024-26	真空関連メーカー	真空ポンプ、圧力計など、真空技術一般	真空技術について理解を深める	第1回 固体清浄表面の特性、第2~3回 流量とコンダクタンス、第4~5回 物理吸着と化学吸着、第6~7回 真空排気装置と真空計、第8回 期末試験	対面授業	80名 (博士前期課程)	講義等の内容(プログラム)で、「第6~7回真空排気装置と真空計」の部分において、1回分の実践的な講義を企業の技術者の方に願いたい。
2025-30	継続	2024-27	製造業	レーザー特性の理解、レーザーの動作原理の理解、レーザーの制御方法の理解、レーザー応用技術の理解	レーザーの発振原理と特徴を理解し、先端計測技術並びに加工技術への応用に際して、どのように利用されているのかを理解し、説明できることを目的とする。	1 イントロダクション -産業におけるレーザー光の重要性- 2 レーザーの性質 3 レーザーの発振原理 4 レーザー媒質 5 光制御技術 6 レーザーの出力特性および評価技術 7 レーザー応用技術 8 最近の話題	対面授業	10-20名	レーザー加工、レーザー計測などのレーザー応用技術について、実際にこれらの技術を用いている技術者による実践的な講義(1-3回)を希望いたします。
2025-31	継続	2024-28	先進的なシステム開発に携わる方	自然言語処理、音声認識、話者認証、音声合成、音声強証、機械翻訳、テキスト解析等の音声・自然言語処理技術	人にやさしい情報社会を実現するための要素技術とその応用を知る	システムの構築例、運用例などをお話し頂きたい。	対面授業	博士前期課程(1年生) 20名あまり	
2025-32	継続	2024-29	建築設計、建築パース制作、写真編集、レイアウトデザイン	CAD・CG・図面制作・モデリング・写真などの編集技術	建築設計におけるコンピュータの利活用の技術を習得する	工学部社会工学科建築・デザイン分野の2年次において建築設計のコンピュータの利活用について講義・演習を行う	対面授業	70名 (学部生)	建築設計においては、年々、最新のソフトウェアの利活用、3Dプリンタやレーザーカッターなどの利活用が多様化してきている。建築情報技術では、実社会でのコンピュータを活用した建築設計の技術を紹介いただける専門職の方に講義と演習をお願いできれば幸いです
2025-33	継続	2024-30	素材・電子機器・光学材料／機器・計測器・化学・食品などのものづくり企業で薄膜化技術・ナノテクノロジーに携わる研究者・技術者	材料の薄膜化、ナノ構造化によって産まれる新機能と関連プロセス技術	受講生の、物質低次元化から新奇機能が産まれる理由、その作製法と応用についての理解を深めること	①薄膜化・ナノテクノロジーの概要 ②物質の低次元化で発現する現象、そのアドバンテージ ③薄膜化・ナノ構造化技術 ④最先端応用技術の紹介と将来展望	対面授業	約20名 (博士前期課程)	薄膜化・ナノテクノロジーの応用事例を受講生に理解してもらいたく、また進路検討の一助にもなればうれしいと考えております。
2025-34	継続	2024-31	固体酸化物形燃料電池の材料開発に実際に携わっている方	固体酸化物形燃料電池	新エネルギー材料のしくみを理解するとともにその応用例を知る	最新の固体酸化物形燃料電池の構成、それに用いている材料の物性、現状の問題点、その課題克服のためのアプローチ法等についてお話しいただきたい。	対面授業	約20名 (博士前期課程)	
2025-35	継続	2024-38	エネルギー関係	新エネルギー工学	化石燃料や原子力燃料に依存した体制からの脱却に向け、多様な新エネルギー源とその利用方法や問題点について学ぶ。具体的には、電力・会社・エネルギーシステム・環境系会社の技術者・研究者が、オムニバス形式により、再生可能エネルギー、バイオマス、新燃料、水素などの新エネルギー等を利用した電気エネルギーや熱エネルギーの創生と有効利用・運用について講義する。	1. 新エネルギーの概要 2. 再生可能エネルギーの現状 3. 需要家における再生可能エネルギー等の最適利用 4. 再生可能エネルギー等の系統連系における技術的要件 5. ガス、水素、熱エネルギー利用技術 6. 新エネルギーとスマートグリッド技術 7. 地球温暖化問題 この中の6または7、あるいは両方の担当をお願いしたい。各90分。	対面授業	50名程度	
2025-36	新規		電気機器製造業	電気機械工学1	1)電気機器の電磁誘導に基づく電気エネルギーと機械エネルギーとの変換について学ぶ。 2)企業の研究開発事例について学ぶ。	第 1-12週: 1電気機器(種類)、2電磁エネルギー変換(磁気エネルギーとインダクタンス)、3電磁エネルギー変換(交番磁界と回転磁界)、4直流電動機(構造と原理)、5直流電動機(特性について)、6変圧器(構造と原理)、7変圧器(特性について) 8誘導電動機(構造と原理)、9誘導電動機(特性について)、10同期電動機(構造と原理)、11同期電動機(特性について)、12電気機器の歴史の変遷 第13-15週: 企業の電気機器の研究開発事例について実用的観点から学ぶ。 企業が直面する知的財産を踏まえた研究開発について学ぶ	対面授業	10名程度	企業の研究開発事例について講義をお願いしたい
2025-37	新規		食品成分(構造が明確な化合物や酵素)を製造している原料メーカーを希望。技術系の社員(研究・開発・製造など)を講師として希望。	食品化学	食品成分の化学構造・性質・化学変化について学ぶ	教科書(食品学I、羊土社)の内容に沿って、食品の5大栄養素の一次機能・二次機能・三次機能や、化学構造について理解する。	対面授業	90名程度(主に生物資源学部・生命化学コースの2年生)	
2025-38	新規		調理器具・機器製造業	食品調整にかかわる機器・器具メーカー・エネルギー企業の課題と現状	調理に関連する調理器具(鍋など)、調理機器(水栓、調理シンク、冷蔵庫、コンベクション、ガスコンロやIHコンロなど)の現在の流行や使用者目線での開発・評価について学ぶ	生活者目線で調理機器や器具の使用を、開発・製造企業がどういった研究や市場評価をしているかを、機器、器具等を使用、採用する仕事に就く可能性がある学生たちに企業目線でお話しいただく。	対面	約20名	授業日は、金曜日4限(15:35~17:15)もしくは5限(17:25~19:05)。ただし工場見学など実地の場合には相談のうえ、補講として別日も可能。
2025-39	新規		食品サービス業・飲食業	フードサービス、外食の運営	外食・給食など食品づくりの課題と現状について学ぶ	大学での学びが、フードサービスの会社でどのように活かされているかをお話し頂きたい。フードサービスについて商品開発、研究目線だけでなくそのマーケティング、営業を含めてお話しいただきたい	対面授業&工場か 現場見学	約20名	授業日は、金曜日4限(15:35~17:15)もしくは5限(17:25~19:05)。ただし工場見学など実地の場合には相談のうえ、補講として別日も可能。
2025-40	新規		印刷業・広告業など	デジタル表現・クリエイティブの可能性	学生がデジタル表現の多様な可能性を知り、実社会での活用事例に触れることで、自らのアイデアを形にする力を養うことを目的としています。企業での制作実例を学ぶことで、社会に直結した視点や発想の広がりにつながっていきたくと考えています。	事業や活動の紹介のあと、実際に制作された映像・Web・デザインなどの作品を見せながら、制作の流れや使っているツールについて教えていただければと思います。また、作品づくりのポイントや工夫の意図についても解説していただき、学生からの質問に答えいただける時間をいただけると助かります。	対面授業	1年、2年が中心 100名程度	

NO	新規 継続 分類	2024年 度 該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	大学が希望する講義内容	講義形式	受講予定学生数	その他
⑥課題解決型講義(PBL)									
2025-41	継続	2024-41	業種、属性など特に指定はありません。BtoBでもBtoCでもOKです。	科目名「キャリア実践」 当該企業の使命、業界の状況や取り巻く社会情勢などに触れながら、企業としての課題や重視する取り組みについてお話いただく。	産学協同授業として、1、2年生を対象に、企業が取り組む「リアルな課題」を学生に提示して「社員」という意識で取り組ませる。授業を通じて社会に出る上で必要な主体性、知識、能力、論理的思考、コミュニケーション能力を鍛える。	3回ご出講いただきたく存じます。1回目は講義(会社の紹介、使命、業界を取り巻く状況、社会情勢、現在の課題、学生たちへの課題提示等)。2回目と3回目は、課題に対する学生たちのプレゼン、その評価、指導をお願いします。	対面授業	40名程度	(1)授業は後期・金曜4時限(14時半～16時)に配置されており、2026年度は以下のいずれかでお引き受けいただければ幸いです。具体的日程は企業様のご都合や大学行事を確認した上で2026年3月までに確定したいと思います。 ・日程A: 2026年10月中旬～11月下旬の間で計3回 ・日程B: 2026年12月上旬～2027年1月下旬の間で計3回 (2)3回のご出講のうち、初回は企業様の講義で、その中で学生たちに「課題」を提示していただきます。学生たちはその課題に対してチームで取り組みます。2回目、3回目の授業では、学生たちが課題に対する中間プレゼン、最終プレゼンを行いますので、それに対して評価、コメント、ご指導をお願いします。 (3)授業の趣旨・目的・構成などご理解いただくため、6月～8月の間に「授業研究会」(2時間程度)を行います。オンラインを予定しており、日程は後日調整させていただきます。
2025-42	新規		商社、製造業(海外と強い関わりのある企業様であれば、さらに助かります。)	基礎演習 Future Skill Project～失敗(時々成功)体験から始める人材育成～	企業様から課せられた課題への取り組みを通じて、「答えのない問い」に臨み、失敗(時には成功)を体験しながら、学生が「自分に足りないもの」を見つけ、自ら行動を起こす「チャレンジ精神」や「主体的に動く力」を身につけていくことを本講座の目的としています。	講義の実施時期は後期(9月～1月)となります。 企業担当者様には合計3回授業にご参加いただきます。 1回目: 企業担当者様による企業紹介および課題説明 2回目: 学生による第一次提案 3回目: 学生による最終提案 ・企業担当者様から課せられた課題に対して、その解決策を学生がグループで探ります。 ・第一次提案発表・最終提案発表後、企業担当者様よりご評価いただきます。 ※クラス／講座全体の運営は本学専任教員が行います。 【参考サイト】 一般社団法人 Future Skills Project 研究会 http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/	対面授業	対象学生: 外国語学部 1年生(後期) 1クラスあたりの想定学生数: 約25名(4～6名程度のグループで課題に取り組みます)	
2025-43	新規		特に問いません	PBL演習3(データサイエンス)	実務課題解決のための実践的なデータ活用を知るとともに、その体験を通じてデータサイエンスの実践力を養わせること	3年前期に実施する課題解決型演習科目です。3班に分かれて7回1セットの課題演習を2セット、合計2単位分を履修します。前もって企業・公共団体・医療機関の皆様から各班別に1セット分の課題に関連する実データとともに頂戴し、グループワークで課題に取り組みます(チューター教員は毎回随伴する)。企業・団体の皆様には初回にテーマ解説をしていただき、その後は学生からの中間報告、最終報告会にてご講評をいただくことを想定しております(ちなみにR7年度初めて実施、金融関係、IT関係、化学系製造業関係、研究機関、地方公共団体2団体にご協力いただきました)。	初回、最終発表についてはできれば対面が望ましく考えております。	基本的には25～27名の予定	課題ならびに関連する実務データのご提供(可能な範囲で。匿名化・架空化ももちろん可)と課題解説講義1回、学生グループの中間・最終発表へのご参加を希望します。
2025-44	新規		特になし	企業が抱える課題の解決策を考えてみよう	企業が抱える実際の課題を知り、解決方法を考え、思考力を養う	《序盤》講師の方から、自社の会社・事業概要及び抱える課題についての説明をいただき、学生に基礎知識をインプットする 《中盤》グループワークを通じ、課題に対する解決案を考える 《終盤》グループごとに解決案を発表し、講師の方からご講評をいただく 上記プログラムに記載のとおり、自社のご説明及び課題の提示・学生の発表に対する講評	対面授業	20名程度	プログラムの内容を踏まえると、1日(90分)では時間が足りない可能性もあるため、複数日程(2～3回×90分など)で開催できるとありがたい
⑦会社・工場見学									
2025-45	新規		製造業、できれば素材・部品等を手がけるBtoBの企業でグローバル展開している企業が希望です	製造業で働く魅力	部品や素材といったBtoB企業にふれることで中部地域の製造業の魅力を知り、学生に視野を広げてほしいと考えています。	企業(工場)見学と企業説明。工場を見学することで、ものづくりの魅力を知ってほしいと考えております。	企業見学と企業説明、難しければご来学いただいてのご講義でも構いません	30名程度	ゼミで少人数のため、ざっくばらんな形で質疑応答もおりまぜながらすすめていただければと考えております。
2025-46	新規		製造業	工場見学	中学校技術科や高校工業の教員を目指す学生に産業の現場のあらましが分かる説明をまじえた見学会をお願いしたい		対面授業	約10名	
2025-47	継続	2024-50	製造業	生産ライン見学・原価計算(原価管理)担当者との懇談	コストマネジメントへの取り組みについて知ること。	・企業紹介 ・生産ライン見学 ・社員(原価計算・原価管理の担当者)との懇談 ・質疑	生産ラインの見学と対面による懇談	20～50名程度	生産ラインを見学したのちに、原価をコントロールして利益を導くために、どのような取り組みをされているのかについてお話を頂戴したい。
2025-48	継続	2024-51	不問	工場見学/職場見学	産業や組織に関する心理学の知見が現場でどのように活かされているか、活かすことが出来るかを考えること。	企業紹介、工場見学/職場見学、社員の方との懇談や質疑 上記のほか、ユニバーサルデザイン、キャリア形成/教育に関するセミナーなどでも構いません。	対面授業 (可能でしたら工場見学/職場見学をお願いしたいです)	10～25名	心理学部の3～4年次生向けの授業「応用心理学実習Ⅱ」にてお願いできないかと考えております。心理学部の学生は、組織行動、人的資源管理、安全衛生、および消費者行動などの幅広いテーマの下で、働く人や産業、組織全般に関わる心理および行動について学んでいます。ふだんの授業(座学)で学ぶ産業や労働に関わる心理学の知識と、実際の職場や日常社会とをつなげて考えることができるように、工場見学/職場見学を行いたいと考えています。また、地元の優良企業を見学することで、学生が就職活動への動機づけを高める機会にもできれば良いと考えています。 前職での同様の取組の例です！ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/60050/ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/30216/ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/10707/
2025-49	新規		調理器具・機器製造業	食品調整にかかわる機器・器具メーカー・エネルギー企業の課題と現状	調理に関連する調理器具(鍋など)、調理機器(水栓、調理シンク、冷蔵庫、コンベクション、ガスコンロやIHコンロなど)の現在の流行や使用者目線での開発・評価について学ぶ	生活者目線で調理機器や器具の使用を、開発・製造企業がどういった研究や市場評価をしているかを、機器、器具等を使用、採用する仕事に就く可能性がある学生たちに企業目線でお話しいただく。	対面授業または工場見学	約20名	授業日は、金曜日4限(15:35～17:15)もしくは5限(17:25～19:05)。ただし工場見学など実地の場合には相談のうえ、補講として別日も可能。
2025-50	新規		食品サービス業・飲食業	フードサービス、外食の運営	外食・給食など食品づくりの課題と現状について学ぶ	大学での学びが、フードサービスの会社でどのように活かされているかをお話し頂きたい。フードサービスについて商品開発、研究目線だけでなくとそのマーケティング、営業を含めてお話しいただきたい	対面授業&工場か現場見学	約20名	授業日は、金曜日4限(15:35～17:15)もしくは5限(17:25～19:05)。ただし工場見学など実地の場合には相談のうえ、補講として別日も可能。
⑧インターンシップ、企業内実習の受け入れ									
2025-51	新規		製造業	「製造業(自動車・機械含む)における実務の現場を体験する」	・製造業(自動車・機械含む)の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたいと思います。
2025-52	新規		卸売業	「卸売・小売業における実務の現場を体験する」	・卸売・小売業の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたいと思います。

NO	新規 継続 分類	2024年 度 該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	大学が希望する講義内容	講義形式	受講予定学生数	その他
2025-53	新規		金融業	「金融業における実務の現場を体験する」	・金融業の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたく思います。
2025-54	新規		輸送用機械製造業	「輸送用機械器具製造における実務の現場を体験する」	・輸送用機械器具製造の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたく思います。
2025-55	新規		金属製品製造業	「金属製品製造における実務の現場を体験する」	・金属製品製造の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたく思います。
2025-56	新規		情報サービス業	「情報サービス業における実務の現場を体験する」	・情報サービス業の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたく思います。
2025-57	新規		広告業	「広告業における実務の現場を体験する」	・広告業の実務の現場が、どのような課題と向き合って日々の業務に取り組んでいるのかを体験する。 ・大学卒業後に事務系総合職または一般職として組織に貢献するために必要な社会人としての基礎を理解する。	5日間のインターンシップ	対面授業	2名	・大学を卒業して、事務系総合職または一般職として就業する学生たちが、5日間の研修をとおして実務の世界を少しでも理解して、在学中に実社会で求められる能力に磨きをかけるためのきっかけになればと考えております。未来を担う若者の人材育成のために、企業さま・団体さまのお力添えをいただきたく思っております。 ・学生たちは大学で経営学および外国語を学んでおります。もし海外との接点のある部門などが受け入れ企業さまにあるようでしたら、なおありがたく思います。
2025-58	継続	2024-52	不問	博士後期課程実務訓練	大学院博士前期課程、後期課程で身につけた研究能力を、企業、研究機関などで日常行われている研究、開発、設計などの実務を通して実践することにより、企業等での問題把握方法、解決策の選択やアプローチの実際を知る。訓練指導者あるいは担当者との密接な議論と実践を通じて、将来指導的技術者となるために必要な人間性の陶冶を図るとともに、実践的な技術感覚を磨く。 博士号取得者は増加していますが、企業への就職は必ずしも順調とは言えません。企業のニーズと博士号取得者のシーズあるいは方向性の相違が問題視されています。そこで、博士取得者が社会のニーズに合致し社会に貢献できるよう、博士後期課程の学生を企業における実務訓練に派遣します。	基本的に、指導教員と受入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。			・URL http://www.tut.ac.jp/university/training.html ・本学では既に30年以上にわたり、4年次の実務訓練を実施してきている。課題解決型実務訓練や博士後期課程実務訓練は、長期かつ高度なインターンシップ活動を可能にする枠組みである。 ・これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。 ・就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。

NO	新規継続分類	2024年度 該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	大学が希望する講義内容	講義形式	受講予定学生数	その他
2025-59	継続	2024-53	不問	課題解決型実務訓練（海外）	学部から大学院博士前期課程に進学する学生を対象に、社会との密接な接触を通じて、指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図ることを目的に学部4年次で実施する2か月の実務訓練に加え、4か月の期間にわたり企業・研究機関等の専門分野が抱える課題の解決に引き続き取り組ませ、学生に実践的な技術感覚を体得させ、実践的課題解決能力や企画力、創造力を養成することを目的とします。 学生の海外就労を推進するため、特に【企業の海外拠点】における長期インターンシップ先を求めています。海外での長期実務経験を経た学生は、社会に出た後も海外勤務などの即戦力として活躍が見込まれます。	本学の学部4年生は、12月までに卒業研究（論文執筆、発表会）を済ませたあと、1～2月（7週間）企業等において実務訓練に従事する（必修科目）。 「課題解決型実務訓練」では、1～2月の「実務訓練」に引き続き大学院博士前期課程1年次の5月末まで、およそ5か月にわたって企業で実務に従事して技術的課題の解決に取り組む。 基本的に、指導教員と受入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1～4名程度。	・技術者を目指す学生（工学部）に実際の現場を見せたい。 ・できれば働いている社員の方と意見交換する時間を設けてもらい、最新技術の動向、研究に組みむ姿勢などについて学ばせたい。
2025-60	継続	2024-54	不問	課題解決型実務訓練	学部から大学院博士前期課程に進学する学生を対象に、社会との密接な接触を通じて、指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図ることを目的に学部4年次で実施する2か月の実務訓練に加え、4か月の期間にわたり企業・研究機関等の専門分野が抱える課題の解決に引き続き取り組ませ、学生に実践的な技術感覚を体得させ、実践的課題解決能力や企画力、創造力を養成することを目的とします。	本学の学部4年生は、12月までに卒業研究（論文執筆、発表会）を済ませたあと、1～2月（7週間）企業等において実務訓練に従事する（必修科目）。 「課題解決型実務訓練」では、1～2月の「実務訓練」に引き続き大学院博士前期課程1年次の5月末まで、およそ5か月にわたって企業で実務に従事して技術的課題の解決に取り組む。 基本的に、指導教員と受入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1～4名程度。	・URL http://www.tut.ac.jp/university/training.html ・本学では既に30年以上にわたり、4年次の実務訓練を実施してきている。課題解決型実務訓練は、実務訓練をさらに発展させ、長期かつ高度な活動を可能にする枠組みである。 ・これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。 ・派遣先募集は7～9月、学生の配属調整は10月、企業への派遣依頼は11月頃である。 ・就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。
2025-61	継続	2024-55	不問	実務訓練	企業・官公庁等で実務に従事し ・業務遂行のためのコミュニケーション ・他の科目で習得した知識の活用法 ・業務に関する実践的思考力（スケジュール計画と時間管理、判断力、他）等を習得するとともに、それらの重要性を認識する。	本学の大学4年生は、12月までに卒業研究（論文執筆、発表会）を済ませたあと、1～2月（7週間）企業等において実務訓練に従事する（必修科目）。 本学の実務訓練の特徴は以下の通りである。 ・卒業研究まで終わった4年生、すなわち新卒者相当の学生が履修する。 ・就労体験を目的とした3日程度のインターンシップと異なり、7週間の実務訓練では社員の指導のもと実務の一端を経験し担当することを目的とする。 ・実務訓練を履修することにより、自らの能力・経験と希望する職務とのマッチングあるいはギャップを体得することができる。それを元に大学院進学後の研究・学習活動を充実させ、さらに就職活動においても自信をもって職種・職業を選ぶことができる。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1～4名程度。	・URL http://www.tut.ac.jp/university/training.html ・本学では既に30年以上にわたり、上記の方法で実務訓練を実施してきている。 ・これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。 ・派遣先募集は7～9月、学生の配属調整は10月、企業への派遣依頼は11月頃である。 ・就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。
⑨外国人材の活躍支援									
2025-62	継続	2024-56	外国人の採用を積極的に行っている企業（オフィスワーク中心）で、採用・人材に対する立場や理念を説明できる方。CSRに関わる部署の方が望ましい。	職場における多文化共生	外国人の採用を積極的に行っている企業（オフィスワーク中心）において、採用・人材に対しどのような立場や理念を持っているか、国籍や文化の異なる社員同士と一緒に働く上で気を使っている点やその工夫などをお話いただき、身近な多文化共生について学び、考えるきっかけを与える。	春学期（4月初～7月末 金曜日9:00～10:30）期間中の1コマで1時間程度の講演をしていただき、その後質疑応答10分、講演の感想レポート作成20分。	対面授業希望だが、オンラインでも可	100人（人文社会学部2年生80人、3～4年生20人）	
2025-63	継続	2024-57	英語でご対応頂けると、留学生の参加者が増える（難しい場合は、日本語でも構いません）。	社会人と学生が連携した課題解決学習	社会人＆学生の交流会（ワークショップ）	ダイバーシティ化を推進する企業様の社員の方々に本学までお越し頂き（或いは本学学生が企業様を訪問させて頂き）、学生とともに企業様が直面していらっしゃるビジネス上の課題を共に考えるワークショップの機会を作りたく思います。	オンライン授業、対面授業が可能な状況になれば対面授業	約25名～50名	英語でこのようなことを対応頂けると、留学生の参加者が増えます（難しい場合は、日本語でも構いません）。
2025-64	継続	2024-58	不問	留学生インターンシップ	留学生に特化したインターンシップの実施	留学生を対象としたインターンシップの機会を頂ければ幸いです。本学の留学生は、日本語検定能力試験2級以上は保有しており、日本語でのコミュニケーションは概ね慣れていますが、就職を検討する際に、どうしても就業経験の乏しさから、「働く」ことを具体的にイメージできない傾向が強く、是非多くの中部圏企業様より2週間程度（願わくば1ヶ月以上）のインターンシップの機会を頂ければ幸いです。また、日本人学生が海外留学終了後に、そのまま海外に残り現地でインターンシップを行なうことを希望するケースがございます。そのような学生にインターンシップの機会を提供頂ける企業様がもしいらっしゃれば、是非ご連絡頂ければ幸いです。	オンライン、対面が可能な状況になれば対面	対象学生（総数）は30名～80名程度	1日のみ実施するインターンシップが最近増えておりますが、留学生には企業活動や「働く」ことへの理解を深めるには時間が足りないようです。そのため、長期でのインターンシップの機会を、多くの企業様より頂戴できれば有難く思います。